

J CMA フォーラムに260人

コンクリート建造物の長寿命化

コンクリートメンテナンス協会（J CMA、徳

納剛会長）は8月30日、

限られた予算内でより多くの社会資本の安全な供用が可能となる」とあいさつした。

フォーラムでは近未来

『コンクリート建造物の補修・補強に関するフォーラム2022』コンクリート建造物の健康寿命を延ばし、脱炭素社会を目指す』を名古屋市内で開き、約260人が参加した。

コンクリート研究会の十河茂幸代表が「予防保全を目的としたコンクリート建造物の点検要領」、

町が参加

の総合防災訓練

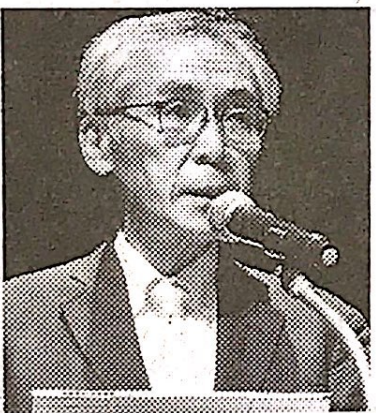
を震源とする大規模地震を想定して実施。道路啓開や災害医療救護、がれき撤去の他、市民参加による訓練として避難所の設置・運営、シェイクアウト、救援物資輸送などを行った。訓練には市民団体や警察署、自衛隊の他、民間の企業や団体などが参加した。

冒頭、徳納会長「写真は「地球温暖化に早急な対応が求められている。セメントを大量に使う橋梁架け替えや建造物の新設よりも、補修・補強をすることが脱炭素社会への貢献だと考える。コンクリート建造物の健康寿命を延ばすことで、

協会技術委員長の江良和徳氏が「維持管理シナリオを考慮した補修工法選定の考え方」「亜硝酸リチウムを用いたコンクリート補修一問一答」、C P工法研究会・

樹春日井市長は「防災には事前の準備と心構えが大切。今回の訓練を、1人でも多くの人命を守る行動を考える機会としてほしい」と語った。

エルガード協会の山本誠氏が「電気防食技術と施工実例の紹介」、セメント協会の五十嵐数馬氏が「セメント系補修材料の使い方」についてそれぞれ講演した。参加者は終日、コンクリート建造物の健康寿命を延ばすための維持管理の考え方、点検技術、診断技術を踏まえた補修・補強技術の最新情報に耳を傾けた。



登録講習でC P D S 認定